

令和元年度  
学校自己評価報告書

令和2年3月

学校法人阿佐ヶ谷学園  
阿佐ヶ谷美術専門学校

## 1. 学校の教育目標

本校の目的は、アートの教育を以って理想的真、善、美の世界を現実化することにある。そのプロセス、成果によって、社会及び世界に貢献しようとする。その為には精神の自由が必要であり、それは総合性によって得られ、また人間は自然の一員として、そこから学び、それらを通し成業を果たし、成就へと向かう。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

学科ごとの良質なカリキュラムの設定

(学校独自の理念を基軸に)

就職や仕事に結びつく効果的な授業

(学生と社会、それぞれのニーズのバランス)

学生の学びを応援できる充実した施設環境の整備

(リモート授業を活かせる環境の整備)

地域に密着した授業構成

(学生が社会に出るための架け橋)

## 3. 評価項目の達成及び`取組状況

### (1). 教育理念・目標

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、 やや不適切...2、 不適切...1
・ 学校の理念・目的・育人人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
・ 学校における職業教育の特色は何か	4
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
・ 学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
・ 各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

### 1 課題

理念と教育目標の合致。現在の社会の中での総合的なクリエイティブのニーズに対して、さらに工夫して将来を見据える必要がある。

### 2 今後の改善方策

様々な分野を横断した教育を検討すべき。即戦力になるスキルを生かした就職活動が展開できるような指導体系の整備。

### 3 特記事項

## (2). 学校運営

評価項目	適切...4、 ほぼ適切...3、 やや不適切...2、 不適切...1
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	3
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	2
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2

### 1 課題

適正な役割の制定。事務関連業務の振り分け。

### 2 今後の改善方策

人材配置の適正化。事務業務の効率化、体制の強化。

### 3 特記事項

## (3). 教育活動

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、 やや不適切...2、 不適切...1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	2
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	2
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	2
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	2

### 1 課題

成績判定や進級基準が各コースによって異なっている部分がある。職員の能力開発が不足している。

## 2 今後の改善方策

単位認定の規定を全体で確認。明確な基準を共有する。

職員対象のセミナーなどの開催、参加を行う。

## 3 特記事項

### (4). 学修成果

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 就職率の向上が図られているか	3
・ 資格取得率の向上が図られているか	2
・ 退学率の低減が図られているか	3
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3

## 1 課題

卒業生との関係が希薄になる事がある。就職に対して学生の初動が鈍い傾向。資格取得の認知。

## 2 今後の改善方策

卒業生との関係を深め、同窓会との連携を図る。起業も含め、学生を就職へ意識づける取り組み。

取得できる資格の周知。

## 3 特記事項

### (5). 学生支援

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	4
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	3
・ 保護者と適切に連携しているか	3
・ 卒業生への支援体制はあるか	3
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

## 1 課題

学生支援で要求される項目の増加。メンタル面への配慮が必要な場面が多くなっている。社会人のニーズの把握。高校との連携。

## 2 今後の改善方策

保健室と就職相談室の分離。社会人のニーズについての検討。

## 3 特記事項

### (6). 教育環境

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
・ 防災に対する体制は整備されているか	3

## 1 課題

建物自体が老朽化していたり、バリアフリーになっていない。短期交換留学制度の活用者が少ない現状がある。

災害に対する備え。

## 2 今後の改善方策

施設・設備の修繕実施（毎年度）建て直しの検討、防災対策チームの組織化。世界情勢が安定した頃から海外研修を復活させる。

## 3 特記事項

### (7). 学生の受入れ募集

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	4
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
・ 学納金は妥当なものとなっているか	4

## 1 課題

滞納、延納などへの対応。学力や学習意欲の高い健康な学生の獲得。

## 2 今後の改善方策

減免制度が施行されたことにより、学費や制作費以外の助成の方法を検討する必要。

意欲の高い学生を、より評価できるシステム作り。

### 3 特記事項

#### (8). 財務

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	3
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	3

#### 1 課題

予算にない予定外の出費。

#### 2 今後の改善方策

予算全体に予定外の出費に対する余力を持たせる。

### 3 特記事項

#### (9). 法令等の遵守

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
・ 自己評価結果を公開しているか	4

#### 1 課題

#### 2 今後の改善方策

### 3 特記事項

#### (10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
・ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

## 1 課題

杉並区との連携など、これまでの実績を生かした更なる社会貢献意識の定着。

地域貢献に関して持続的に運用するには不確定な案件が多く、学事スケジュールに合わせるのは困難さもある。

## 2 今後の改善方策

学生の個人的な希望や有志を活かせる、きめ細かい学校の地域との連携。

## 3 特記事項

### (11). 国際交流(必要に応じて)

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
・ 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3
・ 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3
・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

## 1 課題

留学生数の増加からも適切な在籍管理が年々、負担が大きくなってきている。

## 2 今後の改善方策

留学生担当部署の設置や、在籍生との緊密な連絡体制や実情の把握に努める努力を続けること。

## 3 特記事項

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校評価を毎年定期的かつ真摯に実施することは当然であるが、社会情勢（特に今年新型コロナウイルス感染症の影響）と学校、教職員、学生の状況を速やかに把握し、具体的に各部門を数値化することによって、今後も分析しやすい状態をつくり次年度に繋げたい。

このデータの結果により、教職員の意識を高め、問題点をよく検討、対策を講じていく。新型コロナウイルス感染症が要因となり、業務の効率化に関してはかなりの成果がでていく。

また教育内容だけでなく、本校の施設、設備、就職、学校生活全般にきめ細かい配慮をし、学生、保護者の理解が得られるよう周知していきたい。周知、広報手段も工夫をこらしたい。それが本校と社会、本校の教職員、本校と学生のより良い関係を生み出す素になる、と考えている。昨年の結果に引き続き、今回の自己評価でも、概ね一定の評価がある一方、組織の意思決定や人材配置のバランス、教員研修や資格取得、学生の課外活動に対する支援など、解決し切っていない課題は多いが、前回に比べると概ね良い評価の方へ動いていると感じる。

令和元年度  
学校関係者評価報告書

令和2年3月

学校法人阿佐ヶ谷学園  
阿佐ヶ谷美術専門学校

## 学校関係者評価（令和元年度自己評価に基づく）

開催日時：2020年 3月21日 14:00

出席者：理事長・学校長 三輪孝光  
副校長 甲斐光省  
理事長付学校長補佐 三輪孝幸  
評議委員代表 鈴木清隆  
評議委員代表 檜垣紀六  
同窓会代表 秋元圭一

### 学校関係者評価・意見

#### <項目1 理念>

基本はクリアしている。プラスαの意見を挙げている人が多いのではないか。

#### <項目2 学校運営>

誰がその部門部門の決定をしているのか不明だが、割合にうまく機能しているのではないだろうか。

小グループのリーダーを年度始めに決めておくと良い。

煩雑な仕事が国から降りて来てしまうので、仕方ない部分もある。

#### <項目3 教育内容><設問4 学習効果>

3・4について 本校は資格取得の学校ではないので、難しい部分もある。

#### <項目5 学生支援>

キャリア教育については各コースで目指しているところが違う。

良いコースもそうでもないコースもある。

#### <項目6 教育環境>

校舎の老朽化はどここの学校でもある。災害対策は建物より人を重視した方が良い。

町内会も若い人が減って運営が厳しくなっている。アサビが町内会と合同で避難訓練など実施すると良いのではないか。アサビの学生のことを考えれば、避難場所が和田堀公園なのは遠すぎて不安である。

#### <項目7 学生募集について>

学費の未納の問題に関してはどここの学校も苦労している。国の給付型奨学金がうまく進んでいけば多少問題は少なくなる可能性がある。

#### <項目8 財務>

特になし

### <項目9 法令の遵守>

問題なし

### <項目10 社会・地域貢献>

学生がボランティア活動を提案して来たら、支援するシステムを作れないのか。

学校の教育内容を考えると、体質的にはボランティアには向かないのでは。

1人1人の個性が違うので、無理に奨励しない方が良いのではないか。

### <項目11 国際交流>

同窓会の名簿を調べると、卒業後母国に帰っている人が少ないように感じるが、現状もそうなのか。

研究科の留学生は、ほとんどが日本全国の大学院を目指す。

厳しいが日本での就職を望んでいる人も多い。

海外への本校の活動としては、フランスのアール・デコと交換留学生制度を継続している。

中国では本校のOBが有名で、氏の母校ということで、

訪ねてくる留学生も少なくない。名のある卒業生がいることは大切である。

### <全体を通して>

教職員の意識の低い部分をよく把握できた。業務全般の意思決定は支持システムをしっかり作ると良い。

資格取得の学校でないので、資格のところの設問は不要の可能性もある。

講師の適性と授業の評価については、最初から評価の高い講師に依頼していく方針なので心配はない。